

東日本大震災に伴う福島原子力発電所 災害対応要員(スクリーニング要員)派遣 [3月~12月]

平成23年3月11日の東日本大震災発生に伴い、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故が発生した。当社は九州電力(株)からの支援要請を受け、関係各部と連携し、原子力事業所員を主体に要員を交代しながら、延べ150名の社員を派遣した。同年3月から12月までの約10カ月に渡り、福島県民のスクリーニング、同県内の環境モニタリング等について、九州電力グループのメンバーとして支援活動に取り組んだ。



福島で放射線量を測定する社員

[業務内容]

- 県民スクリーニング(毎日)
- 環境モニタリング(定期)
- 20km圏内の放射線モニタリング(週1回)
- 土壌サンプリング(不定期)
- 避難者の一時帰宅・マイカー持ち出し等対応(不定期)
- 支援本部対応(資機材の運搬、資材チェック、資料整理)

災害対応派遣者の声

- ◎「九州電力(株)」の腕章を着けているので、多くの住民の方から「九州からですか。ご苦労様です」「ありがとうございます」と声を掛けられ、スクリーニングを行うことによって住民の方に少しでも安心していただけるのであれば、今後も要請がある限り、続けていくべきだと思った。
- ◎住民からの「ありがとう」「安心しました」「遠く九州から来られ、ご苦労様」という声を聞いたときは、本当に支援に来て良かったと痛感した。機会があればまた福島県民のために支援活動に行きたいと思った。
- ◎九州電力チームの事務局は、作業員がいくら早出しようが玄関での見送りをを行い、深夜帰還組に対しても本部で出迎えを行っていた。支援チームの中でも九州電力チームの表情が明るく、現場での動きも良かった。その一員として働いた事を嬉しく思う。
- ◎福島県民の方々が、想像より明るく前を向いて生きている姿が印象的であった。
- ◎原子力発電所で働く事の社会的責任の重さをあらためて肌で感じ、関係者として自覚をもって業務に従事していると思った。

■福島県での当社社員の活動地域

